

# 第1学年国語科学習指導案

日 時 平成29年10月5日(木) 6校時  
生徒 1年 A 組 ( 20名 )  
場所 1年 A 組 教室  
授業者 梅 澤 寿 子

## 1 単元名 伝統文化に触れる

## 2 単元の目標

- (1) 意欲的に文章を読み、古典への興味や関心をもとうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)】
- (3) 古文や現代語訳を、場面の展開や人物の描写に注目して読み、古典作品の面白さを捉えることができる。【読むこと ウ】

## 3 単元と生徒について

### (1) 教材について

本教材「伊曾保物語」は、本単元の二つ目の教材である。一つ目の教材である「古典の世界」は古典と現代とのつながりを意識させ、中学校での古典学習への導入とするものであるが、古文そのものは扱っていない。よって本教材「伊曾保物語」で生徒は初めて古典作品を本格的に学習することになる。中学校での古典学習への入り口となる本教材では、生徒の興味関心を高めるような指導を工夫していくことが必要である。まずは音読を繰り返して、古文のリズムや歴史的仮名遣いに慣れさせ、古典に親しませたい。「伊曾保物語」は古文自体が比較的読みやすく、また内容理解もし易い作品なので、古文の読み方に慣れ、古典に親しむ態度を育てるのに適した教材である。

### (2) 生徒について

古典学習については、小学校でも音読を中心とした学習を経験している。事前のアンケートでの「古典の学習についてどんな印象をもっていますか」については20名中13名が「面白い」、1名が「興味がある」と答えており、古典の学習におおむね肯定的な印象をもっている。また、「中学校での古典学習ではどんなことをしたいと思いますか」については「音読」13名、暗唱3名、内容の読み取り8名、言葉の意味を覚える15名(複数回答可)という結果が出ており、小学校での音読から一歩進んで、語句についての学習や内容に触れる学習をしたいという意欲が感じられる。普段の学習においても、新しい知識を得ることに比較的高い意欲を示している。中学校で古典を学習するのは、本単元が初めてとなるが、生徒の興味関心を生かして指導していきたい。

### (3) 指導構想

本単元では、音読によって文語のリズムに慣れさせ、表現の仕方や古典に関心をもたせるように授業を進めていきたい。本教材においては「犬と肉のこと」で歴史的仮名遣いのおおよそをつかませ、その知識を使って「鳩と蟻のこと」をどう音読すればよいかを考えさせていきたい。また、この二つの文章に共通する特徴を捉える学習を通して内容に目を向けさせ、古典作品に描かれているものの見方や考え方が現代の私たちの生活に通じるものがあることに気付かせ、古典を学んでいく意欲につなげたい。

#### 4 単元の指導計画（全13時間、本時3時間目）

学習材	時数	「学習課題」 ・主な学習内容
「古典の世界」	1	<p>「古典の学習の見通しをもとう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典にはさまざまな種類の作品があることを知り、興味や関心をもつ。</li> </ul>
「伊曾保物語」	3	<p>「現代語とは違う仮名遣いや文末表現に気を付けて、古文を音読しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いに注意して『犬と肉のこと』を音読し、古文の読み方に慣れる。</li> </ul> <p><b>「歴史的仮名遣いに気を付けて、古文を音読しよう。」</b> <b>（本時2／3）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを捉えて、『鳩と蟻のこと』を音読し、古文の読み方に慣れる。</li> </ul> <p>「二つの話に共通する特徴を捉えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名、構成、内容などに着目して、二つの話に共通する特徴を捉える。</li> </ul>
「竹取物語」	4	<p>「古典の言葉と意味を理解しながらすらすらと音読しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の言葉と現代語との違いを知る。冒頭部の内容を捉える。</li> </ul> <p>「『竹取物語』の魅力や面白さは何だろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容を大まかに捉えて、『竹取物語』のどんなところが魅力的なのか話し合う。</li> <li>・歴史的仮名遣いに気を付けて、音読する。</li> </ul> <p>「かぐや姫は天人にどんなことを伝えたかったのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別れの場面の内容を捉える。かぐや姫の言葉に込められた思いを捉える。</li> </ul> <p>「なぜ『竹取物語』は千年以上も読み継がれてきたのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結末部のあらすじを読み、物語の結末を知る。『竹取物語』に見られる、千年以上たった今でも変わっていない人間の心のありようについて考える。</li> </ul>
「矛盾」	3	<p>「『矛盾』を音読して、漢文特有のリズムを味わおう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故事成語とは何か知る。内容をおおまかにつかみ、すらすらと音読する。『矛盾』が現代の日常生活でどのように使われているのかを具体的に捉える。</li> </ul> <p>「漢文の訓読の仕方を理解しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原文と書き下し文の違いを捉えるとともに、返り点など、訓読に必要なきまりを理解する。</li> </ul> <p>「故事成語と自分の生活を結び付けて考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な故事成語の意味や由来を知り、それに当てはまる体験や出来事をまとめる。</li> </ul>
古典学習のまとめ	2	<p>「古典作品の楽しさや魅力を伝えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきた古典作品の楽しさや魅力をまとめ、感想を書く。来年度の1年生に古典作品を紹介するポスター作りをする。</li> </ul>

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
古典の作品に興味や関心を持ち、意欲的に読もうとしている。	古文や現代語訳を、場面の展開や人物の描写に注目して読み、古典作品の面白さを捉えている。	歴史的仮名遣いや訓読のきまり、古典の言葉の意味に注意して音読し、古文を読み味わっている。

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・ 歴史的仮名遣いに気を付けて正しく音読することができる。
- ・ 古文と現代語訳を照らし合わせながら、内容を捉えることができる。

### (2) 本時に係わる評価規準（評価方法）

【言語についての知識・理解・技能】歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムに親しんでいる。（観察・発言）

### (3) 本時の展開

階	生徒の学習活動 Q：教師の発問 A：(穂さる) 生徒の発言，反応	・ 教師の指導上の留意点 【評価の観点】（評価方法）
導  入          10分	<p>0 漢字テストに取り組む。 学習課題をノートに書く。 早く書き終えた生徒は、教材文を音読する。</p> <p>1 前時の学習を振り返り、歴史的仮名遣いを確認する。 Q：前の時間はなんという作品を読みましたか。 A：「犬と肉のこと」です。 A：「伊曾保物語」です。</p> <p>Q：書いてある字と読み方が違うところがありました。その部分をなんと言いましたか。 A：歴史的仮名遣いです。</p> <p>Q：歴史的仮名遣いにはどのようなものがありましたか。 A：「くはへて」のところは「くわえて」と読みます。 A：「くはふる」のところは「くわうる」と読みます。 A：「取らむ」は「取らん」と読みます。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・ 宿題で取り組んだ漢字の定着の状況を<b>つかむ</b>。</p> <p>・ 漢字テスト→学習課題をノートに書く→音読をする、という一連のルーティンにより、国語の授業のリズムを<b>つかませる</b>。</p> <p>・ 前時の学習内容を本時の課題に<b>つなげる</b>。</p>
展    開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>歴史的仮名遣いに気を付けて古文を音読しよう。</p> </div> <p>3 「鳩と蟻のこと」の現代語訳を読んで、内容を大まかにつかむ。</p> <p>4 歴史的仮名遣いを捉える。（個人） 音読シートを微音読し、歴史的仮名遣いで書かれている部分を囲む。</p>	<p>・ 音読シートを準備する。</p> <p>・ 前時で得た知識を<b>使って</b>課題を解決する。</p>

展 開	5 歴史的仮名遣いを捉える。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで学び合い、教え合う。</li> </ul>
	6 歴史的仮名遣いが使われている部分を確認する。(全体) Q: どこに歴史的仮名遣いが使われていましたか。また、その部分は現代ではどのように発音しますか。 A: 「にはか」は「にわか」と読みます。 A: 「誘ひ」は「誘い」と読みます。 A: 「あはれ」は「あわれ」と読みます。	
32 分	7 音読練習をする。(ペア) お互いに聞き合い、教え合いながら練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6で確認したことを<b>使い</b>、歴史的仮名遣いの部分を正しく音読しているか互いにチェックし合うように促す。</li> <li>・隣同士にこだわらず、自由に歩き回って聞き合い、教え合うことで繰り返し音読できるようにする。</li> </ul>
	8 全員で音読し、正確に音読できていることを確認する。	<p>【言語についての知識・理解・技能】歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムに親しんでいる。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく読めていることを確認し、達成感をもたせる。</li> </ul>
終 結	9 歴史的仮名遣いについての知識を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙板書を使用する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワ行の「わみうゑを」は「わいうえお」と発音する。</li> <li>・単語の中や最後の「はひふへほ」は「わいうえお」と発音する。</li> <li>・「かう」「しう」は「こう」「しゅう」と発音する。</li> </ul> </div>	
8 分	10 確認テストに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストに取り組ませることによって、本時の学習内容を次時の学習に<b>つなげる</b>。</li> <li>・本時のまとめが次の教材「竹取物語」や今後の古典作品を読むときに生きる<b>(使う)</b>ことを知らせて意欲付けとし、今後の学習に<b>つなげる</b>。</li> </ul>
	11 自己評価カードを記入する。 12 本日の宿題、次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、宿題の提示によって次時に<b>つながる</b>よう意欲を高める。</li> </ul>

(4) 板書計画

P134  
伊曾保物語

つかむ  
学習課題

使う

歴史的仮名遣いに気を付けて、古文を音読しよう

くはへて↓くわえて  
くはふる↓くわうる  
取らむ↓取らん  
かるがゆゑ↓かるがゆえ  
ぢゆう↓じゆう  
かうむる↓こうむる  
うしなふ↓うしなう

にはかに↓にわか  
誘ひ↓さそい  
こずゑ↓こずえ  
食ひ切つて↓いききつて  
ささむとす↓ささんとす  
思ふやう↓おもうよう

まとめ

- ・ワ行の「わぬうゑを」は、「わいうえお」と発音する。
- ・単語の中や最後の「はひふへほ」は、「わいうえお」と発音する。
- ・「かう」は「こう」、「やう」は「よう」と発音する。

つなげる  
次時 二つの話に共通する特徴をとらえよう。  
今日の宿題

□

\*

□で囲んであるところは紙板書を使用する予定。